

第5回 大阪スーパーシティ協議会 会議要旨

1 日時（意見募集期間） 令和7年3月14日（金）～3月28日（金）

2 開催方法 書面開催

3 出席者

吉村 洋文	大阪府知事
横山 英幸	大阪市長
松本 正義	公益社団法人 関西経済連合会 会長
鳥井 信吾	大阪商工会議所 会頭
宮部 義幸	一般社団法人 関西経済同友会 代表幹事
石毛 博行	公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 事務総長
中島 篤	グラングリーン大阪開発事業者 JV 代表企業 (三菱地所株式会社) 執行役社長

4 議 題

- (1) 大阪スーパーシティ全体計画の推進状況
- (2) 全体計画のフェーズⅢ（万博後）の検討について
- (3) その他

5 会議要旨

意見等の概要は次のとおり。

- ・ これまでの夢洲地区及びうめきた2期地区におけるスーパーシティの取組成果を踏まえ、万博後も継続的に発展させていくためには、これらの地区はもとより、グリーンフィールドやブラウンフィールドという枠にとらわれないスピード感ある取組が必要である。

このため令和7年度、幅広いエリア・企業等から、新たなスーパーシティの取組に係る提案を募り、一定の要件を満たすエリア・企業等それぞれを大阪府・大阪市が選定し、これらエリアと企業等のマッチングやデータ連携基盤の活用、規制改革提案、ブランディングなどの支援を府・市が連携して行う仕組みを、現地でのモデル実証も含めて検討する。

新たな仕組みについては、令和8年度からスタートさせ、スーパーシティの取組を自立的で持続的なものとしていきたい。

- ・ 令和4年の指定からこれまでスーパーシティ構想を推進し、AI 気象予測など夢洲コンストラクションにおける各取組をはじめ、全体計画に記載のサービスや規制改革が実現するなど、一定の成果を挙げることができた。

いよいよ開催が間近に迫った大阪・関西万博は未来社会の実験場がコンセプトであるため、万博で活用された最先端技術やサービスが、万博レガシーとして万博後にスムーズに実装されていくようにスーパーシティの制度も活用していきたい。

例えば、大阪にいと自動運転や空飛ぶクルマなどのモビリティが便利で生活の一部になっており、未来のスムーズな移動が実現するようなスーパーシティをめざしたい。また、これまでのプロジェクトで実現した最先端技術やサービス等を、夢洲第2期区域の開発において展開できるよう、事業者募集を進めていきたい。

昨年9月に先行まちびらき、今年3月に南街区などの開業エリアが拡大したうめきた2期において、来街者の利便性が更に高まるような取組を引き続き後押ししてイノベーションを創出していきたい。

今後、民間事業者が更なる提案をしやすい環境づくりに向けて、協議会の皆様と一体となって取り組んでいきたい。

- ・ 夢洲コンストラクションで実証・実装された技術は、夢洲2期開発・大阪IR・その他まちづくりにおいても、活用・検討していきたい。

また、万博で披露される多くの新技術などについて、スーパーシティの枠組みを活用しながら、大阪府市エリアへの展開も検討すべきと考える。積極的な活用の検討をお願いしたい。

民間事業者からだけでなく、大阪府市からも積極的に経済の活性化や技術革新につながる規制改革に関するアイデアを出していただくようお願いする。早期実装・実現に向けては、民間事業者、大阪府市にて、双方で結束して、取り組みたい。

- ・ 万博は、その成果を大阪の成長につなげていくレガシーが重要である。スーパーシティ型国家戦略特区制度は、そのために必要な規制緩和を進めるのに有効であり、積極的に活用すべきと考える。

しかし、民間企業の特区制度に関する認識はまだ十分ではなく、自発的に規制緩和提案をする事例は少ない。民間から多様なアイデアが提示されるよう、スタートアップも含めて民間企業向けに、改めて制度や規制緩和による成功事例の情報提供、説明会を行うべきである。企業への声掛けなど、協力できる部分があるので、前向きに検討をいただきたい。

また、より「住民の視点」にたった提案を募るためにも、都市開発エリア・グリーンフィールドだけでなく、住宅地であるブラウンフィールド、例えば、大阪城東部地区においても検討をしてはどうか。

スマートヘルス分野はスーパーシティの注力領域の一つであるが、日本、世界を牽引する医療都市を目指すためには、現状進めている特区での規制緩和・社会実装実験だけではなく、産学官から多彩なステークホルダーを招き、大同団結できる医療都市ビジョンを描く必要があるのではないかと考える。

- ・ これまでの活動で、DXに関わる様々な先端サービスに取り組まれてきたことは大変素晴らしく、加速していただきたい。

ただ、これらは個々の独立したサービスとして最適化していくのではなく、ORDEN上で構築され、運営されることを見届けてほしい。

フェーズⅢ以降、さらに発展したサービスを創出する際も、このプラットフォーム上に実現されることが重要である。

- ・ 大阪府市におけるスーパーシティの実現については、グラングリーン大阪の上位計画である「みどりとイノベーションの融合の実現」という「まちづくりの方針」にも通じるものがあり、共感をしている。また、官民連携で作り上げるうめきた公園を中心としたグラングリーン大阪での取組が、スーパーシティ全体計画とも相乗効果を生み出し、大阪府市にとって他都市との差別化・競争力向上に資する機会・先導的事例となることを期待している。

さらに、グラングリーン大阪のみならずうめきたエリア全体において、より一層、大企業・ベンチャー企業・産官学・そして市民や来街者とあらゆるプレイヤーが国内外から集積してきているなかで、このうめきたエリアを、関西経済の起爆剤・主導役として位置づけ、関西圏のみならず日本全体ひいては世界に対してプレゼンスを発揮できるまちとして官民一体で取り組んでいきたい。

それに向けては、うめきたエリアが今後の関西経済牽引の主導役であることの位置づけおよび、うめきたに関わる各プレイヤーが柔軟にスーパーシティの座組等を通して規制緩和を得て、機動的に先進的な取り組み実証などを実施できるような実効的な枠組みの構築が望ましいと考える。

また、イノベーション創出の下支えとなる社会インフラ等（国土交通省にて進めている3Dモデルや都市インフラに資するシステム等）は、各プレイヤーの先進的な取組促進、また都市の魅力維持向上に欠かせないものである中で、官民で適切に役割分担のうえ、持続的に運営し積極活用を促していくことが重要である。是非官民ともに手を取り合って、大阪・関西を盛り上げていきたい。

6 会議資料

- (1) 委員名簿
- (2) 資料1_大阪スーパーシティ全体計画の推進状況

- (3) 資料2_全体計画のフェーズⅢ（万博後）の検討について
- (4) 参考資料_これまでの経過